



▲取材後にはみんなで記念撮影。おてつたびの方を交えて、楽しい取材となりました。



おてつだい×たびで地域と人を繋ぐ

猿払村では、村のファンや関係人口の創出、未来の地域おこし協力隊の発掘に向けておてつたび参加者を募集。イチゴ苗の定植が始まる3月、収穫量が増加する8月、9月にお手伝いをしていただきました。

今回は、おてつたび参加者の皆さんにインタビューを行い、猿払村の印象やイチゴ栽培、今後の関わり方についてお話を聞いてみました。

—猿払村の印象

初めて聞いた名前で、どんな村なのかわかりませんでした。「最北端の村」や普段は体験できない「イチゴ栽培」という言葉に惹かれ、猿払村でのおてつたびを決めました。

実際に行ってみると、海のそばに牛が暮らしている様子やきれいな星空など都会では絶対に見ることのできないような素晴らしい風景や美味しい食べ物がたくさんありました。そして何よりも、見ず知らずの私たちを優しく受け入れてくれる村民の方々の温かさを感じ、「知らない場所」から、もう一度必ず訪れたい「特別な場所」へと変わりました。

—イチゴ栽培について

時間が来たら自動で灌水作業が行われるなど、一部の作業がシステム化され、作業の効率化が図られていることにとっても驚きました。イチゴはアイスやジャムなど、様々な加工ができるので、猿払村の新産業創出に大きな可能性をもたらす食材だと感じました。栽培のその先を広げていくことが、猿払村の活性化にもつながると思います。

また、楽しそうに作業を行う職員の方々を見て農業に対するネガティブなイメージが変わりました。

—今後の村との関わり

行かないとわからない魅力や地域の人たちの魅力を発信したり、村外目線の意見を出したりしながら、猿払村の活性化につなげていけたら良いなと考えています。

まだ猿払村を知らない友人や家族と訪れるなどして猿払村の魅力を伝えてもらい、私たちにとっての「特別な場所」がみんなにとっての「特別な場所」になればいいと思います。